

2 研究の実際

(6) 系統表を活用した授業実践

イ 中学校での実践（第 3 学年 社会科）

中学校では、中学校社会科公民的分野の「消費生活と経済」の単元で、食育と関連させた授業を実践しました。授業形態はティーム・ティーチング（以後、TTとする）で行い、T1は社会科担当教員、T2は技術・家庭科家庭分野（以後、技術・家庭科とする）担当教員と役割分担しました。

実態調査によると、中学校で食育を行う際に社会科と連携して行っているという回答は全体の約 5%でした。食育と関連項目が多い社会科での授業実践例を提案することが、学校での取組の推進につながるのではないかと考えました。

「各教科・領域における食育との関連項目一覧表（中学校）」では、今回の授業実践は資料 1 の枠囲み部に該当します。

教科・領域	新学習指導要領	現行学習指導要領	目次大項目	目次小項目	キーワード
社会 (公民的分野)	B(1)市場の働きと経済 ア消費生活と経済活動 の意義	(2)私たちと経済 ア市場の働きと経済 消費生活と経済活動の 意義 市場経済の基本 的な考え方	私たちの暮 らしと経済	消費生活と 経済	消費者主権 契約 契約自由の原則 家計 流通の合理化 自立した消費者 環境ラベル 消費者の権利 商業 広 告 POS システム 食品表示 食品 添加物 消費者問題 クーリング・オ フ 製造物責任法 消費者契約法 消 費者基本法流通 プライベート・ブラ ンド 資本主義経済 技術革新
	B(1)市場の働きと経済 B イ市場経済の基本的 な考え方			価格の働き と金銭	市場経済 市場価格 需要(量) 供給 (量) 均衡価格 独占寡占 独占禁止 法 公正取引委員会 市場 物価 3 R(リデュース・リユース・リサイクル) 循環型社会 環境基本法 省資源 省 エネルギー
	D(2)よりよい社会を目 指して	(4)イよりよい社会を目 指して	地域社会と 私たち	様々な国際 問題	食料問題 飢餓 フェアトレード APEC TPP NAFTA ODA 地球 温暖化 南北問題 南南問題 相互依 存 再生可能エネルギー

資料 1 「各教科・領域における食育との関連項目一覧表（中学校）」から抜粋したもの

系統表では、今回の授業実践は次頁資料 2 の枠囲み部に該当します。社会科と技術・家庭科は、消費者教育を担う二大教科と言っても過言ではありません。生徒は技術・家庭科の食に関する学習や消費に関する学習を 2 年時に終えています。今回の実践は 2 年時までに技術・家庭科で学んだ内容を基に、題材を設定し、消費と環境を関連させた社会科の授業実践です。

「食を選ぶ力」の育成を目指す各教科・領域等における系統表				
「各教科・領域における食育との関連項目一覧表(小・中・高等学校)」の目次小項目から抜粋、キーワードを《》内に表示				
小学校(低)	【小:生活】 ◆いきものをそだてよう(2年) ◆野さいをしゅうかくしよう(2年) 《生き物,野菜,収穫》	【小:生活】 ◆まちでさがそう(2年) ◆まちの人となかよくならう(2年) 《安心,安全》		
		【小:社会】 ◆店ではたらく人、農家・工場の仕事(3年) ◆特色ある地域と人々の暮らし(4年) 《産地,旬,表示,品質,外国産》		【小:体育(保健領域)】 ◆健康な1日の生活 ◆体のせいけつ ◆よりよい発育 《健康,生活のリズム,食品,生活習慣病》
小学校(中)				【小:体育(保健領域)】 ◆病原体と病気の予防 ◆生活のしかたと病気の予防 《栄養,環境,生活習慣病》
小学校(高)	【小:理科】 ◆植物の成長(5年) ◆食べ物のゆくえ(6年) 《養分,種子,生命のつながり,消化》	【小:社会】 ◆暮らしを支える食料生産(5年) 《産地,食生活,食料自給率,TPP,地産地消,食の安全安心,トレーサビリティ》	【小:家庭】 ◆なぜ食べるのか考えよう ◆野菜をゆでておいしく食べよう ◆卵・青菜をゆでてよう ◆五大栄養素のはたらき ◆栄養のバランスを確かめよう ◆1食分の献立を考えよう ◆買い物のしかたを考えよう 《栄養素,バランス,エネルギー,体をつくる,品質,消費期限,消費期限》	【中:体育(保健分野)】 ◆健康の成り立ち ◆休養・睡眠と健康 ◆生活習慣病とその予防 《健康障害,休養,睡眠,生活習慣病》
中学校	【中:理科】 ◆消化と吸収 ◆生物どうしのつり合い ◆自然環境の保全 《栄養素,循環,生産者,消費者,自然環境の保全》	【中:社会】 ◆世界から見た日本の資源・エネルギーと産業 ◆消費生活と経済 ◆様々な国際問題 《食料自給率,地産地消,食品表示,フェアトレード》	【中:技術・家庭(家庭分野)】 ◆生活習慣と食事 ◆食品の選択・購入と保存 ◆肉・魚・野菜の調理 ◆食生活と環境とのかわり ◆環境問題への挑戦 《栄養素,生活習慣病,賞味期限,消費期限,フェアトレード,フードマイレージ,食品ロス,食料自給率,地産地消》	【高:保健体育】 ◆食事と健康 ◆食品の安全を守る活動 《栄養素,成長期,生活習慣病,食品添加物,輸入食品》
高等学校	【高:科学と人間生活】 ◆衣料と食品 《三大栄養素,食の安全,食品添加物》	【高:化学基礎】 ◆物質の性質と役割 《食品添加物》	【高:地理】 ◆世界の食料問題 ◆資源と産業 《食料自給率,地産地消,食品ロス,食の安全》	【高:公民】 ◆食の安全とこれからの農業 《食料自給率,トレーサビリティ》
			【高:家庭(共通)】 ◆生涯の健康を見通した食事計画 ◆これからの食生活 ◆食生活の安全と衛生 ◆調理の基礎 ◆循環型社会をいかに構築するか 《食料自給率,食品ロス,トレーサビリティ,地産地消,フードマイレージ,持続可能な食生活》	【高:家庭(専門)「フードデザイン」】 ※どの項目でも実施可能 《生活習慣病,食料自給率,地産地消,地球環境,中食,朝食,昼食,夕食,スローフード,食品廃棄物,レトルト,表示》

資料 2 「食を選ぶ力」の育成を目指す各教科・領域等における系統表

1 単元名 消費生活と経済

2 単元について

本単元は、中学校学習指導要領の公民的分野(2)「私たちと経済」の「ア市場の働きと経済」を取り上げたものである。身近な消費活動を基に、消費者の権利、契約、消費者問題、流通の役割について理解し、自分の日常生活と経済との関係に気付く、生徒にとっては身近な学習課題を設定することができる単元でもある。本時では、技術・家庭科と関連させた食育の授業を展開し、技術・家庭科担当教員とのTTを通して健康面からの商品選択の視点をもたせ、多面的に思考し判断する力を養う。

社会科としてのねらいは、消費生活や流通に関する事例を基に、経済活動における選択や、消費者の権利と自立、流通の役割について多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現させることである。

食育のねらいは、次の2点である。1点目は正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性について自ら判断できる能力を身に付けさせること、2点目は消費者の行動は、自分だけでなく商品を生産する世界中の人々や社会全体に影響を与えていることに気付き、主体的に商品を購入しようとする態度を養うことである。

3 本時の目標

実現可能な消費行動について、多面的・多角的に捉え、自分の考えを表現することができる。

【社会的な思考・判断・表現】

4 本時の展開

学 習 活 動	教師の働き掛け (○)、生徒の発言 (・)、評価【】
<p>1 前時までの各班の主張を振り返る。 《各班の主張》</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e0f0ff;"> <p>1 班 みんな国産レモンを買おう 2 班 フードマイレージを減らす 3 班 牛乳のマネージャーになろう 4 班 牛乳は考えて買おう 5 班 緑色のレモンを買おう 6 班 牛乳の買い方改革 7 班 国と国がWIN・WINな関係を 8 班 フェアトレードに御協力を 9 班 効率よく製品や原料を配分する</p> </div> <p>2 本時のめあてを知り、見通しをもつ。</p>	<p>○前時までの各班の主張を想起しやすいように、今までの学習の流れや各班の主張の根拠となる資料を電子黒板で提示した。(T 1)</p>  <p>○意見を聞く上での留意点 (メモを取りながら聞くこと、疑問点を整理すること) を伝えた。(T 1)</p> <p>○反対意見だけではなく、より実現可能性が高くなるような意見を出すようにすることを伝えた。(T 1)</p> <p>○説得力のある意見を言うことができるように、発言の際は根拠を示して行うことを伝えた。(T 1)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「持続可能な社会を実現するための消費行動を提案しよう」</div>	
<p>3 他の班からの質疑に対する応答を行う。</p> <p>・班の代表者が質疑に対する応答を簡潔に行う。(2分×9班)</p> 	<p>○ホワイトボードや小黒板を利用し、意見がまとめやすいようにさせた。(T 2)</p> <p>○生徒の発言に対し、小黒板にポイントを付けたり意見の書き足しをしたりして、視覚的に生徒の理解・思考を助けた。(T 1)</p> <p>○話し合いを深めることができるように、各教科の専門的な立場から、必要な場合に適宜助言や支援を行った。(T 1、T 2)</p>
<p>4 質疑に対する応答を聞いて、疑問点が解消できたか、新たな疑問がないか等について班で話し合う。</p>	<p>○疑問が解消できなかった点や、新たな疑問点がある班に意見を発表させた。(T 1)</p> <p>・1 班が国産レモンを買う人が増えれば、レモンを栽培する農家が増えると回答していたが、そのように簡単にはいかないのではないか?</p>



5 質疑に対し、応答する。

- ・ 4 班は牛乳を使った料理をたくさん提案していたが、毎日シチューやパンなどを作るのは無理なのではないか？
- ・ フェアトレードのチョコレートを買えば、児童労働が減ると回答していたが、児童労働が減ることと持続可能な社会と、どのような関係があるのか？

○新たな質問に対する考えを発表させた。(T 1)

- ・ レモンを買う人が増えれば、レモン農家の収入も安定するので、若い人も農業に従事しやすいのではないかと考えている。
- ・ 牛乳を買う時は飲む量を考えて買うことを徹底し、外国がやっているように、牛乳の量り売りが日本でもできるようになれば解決できると考える。
- ・ 児童労働があるということは、勉強する機会がないということで、どうすれば環境が良くなるかという知識が得られないので、持続可能な社会が構築されにくいということとは関係があると思う。

6 本時の振り返りをする。

○技術・家庭科の立場から、健康の視点をもって食品を選ぶことの大切さについて話した。(T 2)

○社会の構成員として、主体的な消費者として持続可能な社会を実現するために、食以外でもどのようなことに配慮すればよいかを考えさせた (T 1)。

○ワークシートに自分の考えをまとめ、記入させた。(T 2)

実現可能な消費行動について、多面的・多角的に捉え、自分の考えを表現している。【思】

〈授業のまとめ〉

ア 考察

本授業においては、以下の3つの視点で考察しました。

- 「健康と環境の視点から食に関する知識が身に付いたか」
- 「自らの食生活に課題意識をもつことができたか」
- 「多面的・多角的な視点で思考し判断することができたか」

○「健康と環境の視点から食に関する知識が身に付いたか」について

今回の授業実践では「持続可能な社会を築くための消費を提案しよう」という単元を貫く問いを設定しました。「持続可能な社会」を「現代の世代と未来の世代がともに幸福である」と説明し、幸福とは健康や安全であることなどを単元に入る前に確認しました。しかし、実際に資料の読み取りを行っていく上で、環境問題に特化した議論になりかけました。議論がほぼ出そろったところで技術・家庭科担当教員（T2）から健康や食品の安全についての解説を入れました。自分が食品を購入する際の視点が健康や環境へも広がりました。以下の生徒のワークシートの記述（資料3、資料4）からも、健康と環境の視点から食に関する知識が身に付いたと言えるのではないかと考えました。

◎今後、食品を選択する際に意識したいことは何ですか？

その食品を、消費期限までに消費できるのか、量は多すぎないかなど、見通しを持って考えて選択していこうと思います。また、味や見た目などで選ぶのではなく、食品添加物や、フェアトレードマークにも気をつけて買っていきたいです。

自分の健康を意識して買うことが経済の何かにつながったり、環境のために考えて買うことが、実は自分のためになったり、何かしらつながってくると思うので、今後、私のためにも未来のためにも見通しを持って食品を選ぼうと思います。

資料3 生徒のワークシートの記述①

◎今後、食品を選択する際に意識したいことは何ですか？

消費期限・消費期限はもろろん、量や必要性、フェアトレードマーク、原産国など、環境や自分の体、友達の体などに良い物を購入していきたいです。

資料4 生徒のワークシートの記述②

○「自らの食生活に課題意識をもつことができたか」について

生徒のワークシートの記述には、「食べ残しをしない」「無駄に購入しない」「量を考えて消費する」などの感想が多数見られました。授業を通して、食が社会に及ぼす影響について考え、食に関する課題を自分事として捉え、振り返ることができたのではないかと考えます。フェアトレード商品などを「どこで買えるのか」「いつも購入できるのか」というような意見が班ごとの質疑応答で多く見られました。その質問は自分が実践することを想定してのものだと考えられます。「いつもはできない」「買ってみようと思うことも大切」などの意見が出たことは、「良いことだと分かっているが実践できるのか」ということが自分の中で課題になり、どうすれば実践できるのかを考えたからではないかと考えます。自らの課題として捉え、実践しようという意欲をもたせることができたので、今後は実践するための手立てや事後調査などを行い、課題解決に向けた取組を支援していく必要があると言えます。

○「多面的・多角的な視点で思考し判断することができたか」について

幾つもの資料・情報を考察したことで、今までもっていた視点が広がり、自分が選択（判断）する基準も明確になり、より最適なものを判断できる要素が備わったと考えます。

技術・家庭科の視点（安全性、健康）と社会科の視点（環境、経済・社会問題）を与えることで生徒に揺さぶりを掛け、ただ「良いものを選ぶ（新鮮なもの、安全なもの、健康に良いもの、環境を破壊しないもの）」だけでなく、どの視点を重要視するかで多様な意見に分かれ、意見を交流することで自分の考えを変えたり自分の意見の補強をしたりしている生徒が見られました。複数の視点が備わったことで実生活でも多面的・多角的な考察と判断ができる可能性が生まれていると考えます。

「商品（食品）の購入が社会に影響を与えると思うか」という事前アンケートでは、「与えると思う」「どちらかというと思う」と答えた生徒が 80%であり、授業後のアンケートでは 96%に増加していました。また、「なぜそう思うのか」という問いについては、事前アンケートでは会社の利益や消費税などの税金など、経済的な視点の意見が 50%を超えていたのに対し、事後のアンケートでは、環境面や健康面などの視点の意見が 63%ありました。授業中の生徒の発言では「せっかく買うなら環境によく、国際的に協力できるものを買いたいと思う」「僕がその商品を買うことで貧しい国に少しでも支援ができれば僕はとっても幸せ」「（フェアトレードなどを通して）児童労働に関わることは結果として将来の発展途上国自身や、私たちの国の環境、経済に良い」「募金などは一時的なものだが、フェアトレード商品を選択することで、募金よりも継続的に支援することができる」といった意見もありました。このことから、多面的・多角的な視点で思考し判断することができるようになってきていることがうかがえます。

イ 教科間の連携について

系統表を見ると、社会科と技術・家庭科のキーワードはかなり重複していることが分かります。社会科の授業では、技術・家庭科の授業を想起させ、技術・家庭科の授業では社会科の授業を想起させるなどして、既習事項を基に授業を進めていくことも効果があると考えます。さらに、教科間で連携を図り、TTなどで授業をすることができれば、生徒が自分の生活と結び付けて考え、家庭で実践する力へとつながるものと考えます。1時間全ての授業をTTで実施することは難しいかもしれませんが、しかし、ゲストティーチャーとして5分程話をするだけでも効果的であると考えます。